

小学校中学年の部

特選 課題図書部門



「ぼくの第一歩」

揖斐川町立清水小学校 四年

加勢 悠真

「うわっ、なんやこのストローは！」
ファーストフードのジュースのストローがプラスチック製から紙製に変わったとき、ぼくは本当にショックだった。紙製ストローは口びるにはりついて気持ち悪いし、水を吸ってすぐしなしなになるから。

なんでストローがプラスチック製でなくなってしまったのかなど疑問に思っていたら、この本が解決してくれた。本にしようかいさされている動画もお父さんと見た。それはウミガメの鼻にプラスチックストローがささってなかなかぬけず、いたそうでかわいそうなえいぞうだった。僕たち人間が使って捨てたゴミがウミガメを苦しめていた。他にも魚や海鳥が食べ物とまちがえてプラスチックを飲みこんでいるなんて想像もつかなかった。ストローが変わったことに文句を言ってしまった自分がなんだかはずかしくなった。

五千年以上前に、シュメール人が工夫して発明したストロー。長い年月と改良を重ね、プラスチックというすばらしい材料で作られた便利なストローは、ぼくたちの生活に欠かせないものとなった。ただ、ここに来てそのプラスチックは実はかんきょうをこわす悪者でもあることが分かった。人間が便利さを求めた結果、自然かんきょうにしろよせがいき、地球が悲鳴をあげている。

マイロ・クレスという男の子は、きつとそのことに気付いてプラスチック製の「ストローをなくそう」運動を始めたんだ。その

子はなんとぼくとおなじ九才らしい。その行動力にととてもおどろいた。ぼくも同じように行動ができるだろうか。

きつとぼくの行動も世の中を変えられる。そのために世の中をどう変えたいかを考えなければならぬ。たとえマイロ・クレスのように大きなことを成しとげられなくても、身近なことから、小さなことから始めればよい。今回、ストローの材料が変わったように、何かに気付くこと、疑問に思うことで自分の行動や考えを変えるきっかけになった。

ただ、わすれてはいけないのは、プラスチックストローを完全になくすのはかん単だけど、そうしたらストローを必要とする病気の人や小さな子どもたちは困ってしまうことだ。だから、ぼくたちの生活を豊かにしてくれたプラスチックストロー全てをなくすのではなく、例えば、しよ理する方法を新たに生み出したり、ちがう視点から考えることができたなら、ぼくたちに明るい未来が近づくのかなと思う。

「マイバッグ持ってます。」

お母さんがよく使うレジぶくろを断るときの言葉である。レジぶくろは、ストローの前に話題になったかんきょうに悪いプラスチックの代表だ。必要のないものをことわる四つ目のR、リフューズ。これからは、ぼくも勇気を出して言ってみようと思う。これがぼくの第一歩。

デイー・ロミート 作

「さようなら プラスティック・ストロー」

光村教育図書

【講評】

自分の経験と本から得た知識をうまくリンクさせて感想文を書いていきます。プラスチックストローを通して世の中をよくする行動をしようと考えるところがすばらしいです。